



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さまと協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.24

地域連携病院②「中洲八木病院」

今回は、患者さんの日常を取り戻すための
リハビリテーションに力を入れて取り組んでいる中洲八木病院を紹介します。

■ 在宅復帰のための総合支援

中洲八木病院は整形外科として開院した病院で、現在は内科、脳神経外科、心臓血管外科を持つ総合病院となっており、県内でも遠方からの患者さんの受入を行っています。入院患者さんの半数以上は整形外科の方ですが、高齢者が多いため、循環器内科や糖尿病内科との連携は欠かせません。中洲八木病院では回復期リハに力を入れていることより、徳島大学病院からは特に脳神経外科からリハビリテーション(以下、リハ)を必要としている患者さんの紹介を受けています。病気やけがで入院をすると、今までできていたことができなくなり、退院後も自宅にこもりがちになるので、入院中にしっかりとリハを行うことを予防策としています。一度、体に不自由を感じると、車に乗るのが怖いと感じられる患者さんも多くいらっしゃいます。徳島は車がないととても不便で、行動範囲が狭くなりがちです。中洲八木病院では、そういった不安を取り除くために入院中に「自動車運転のリハ」を取り入れています。自動車運転のリハでは、リハスタッフが患者さんと一緒に教習所へ行き、患者さんの運転する車に同乗し、

「安全に運転できるようになるにはどんなリハが必要か」を考えながら観察しているそうです。退院後の自立した生活の中で必要な動作は何か、患者さんの要望にそった計画を立てています。また、退院後も訪問看護や訪問リハを行い在宅介護をサポートしています。



↑自動車運転リハの様子

リハを行う上で食事はとても重要です。脳卒中などにより、嚥下訓練が必要な患者さんに対して、以前は「きざみ食」といった食材を細かく刻んだものを提供していましたが、形や食感、食材本来の味が損なわれていることで患者さんの食事の楽しみを半減させていました。そこで、中洲八木病院では「ぶるーね食」を始めています。「ぶるーね食」は嚥下障害があっても食べやすい固さ、食材の見た目や味の再現性が高く患者さんからも喜んでいただいています。

→ぶるーね食。鮭の形に成型され、焦げ目まで本物そっくりに仕上げている。



「地域医療連携」について

徳島大学病院患者支援センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しを目指して、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。

問い合わせは

中洲八木病院
徳島市中洲町1-31
Tel.088-625-3535

■ 説明は

(左上から)天野亜耶(あまの・あや)社会福祉士、森山志乃(もりやま・しの)看護部長、井関博文(いせき・ひろふみ)地域連携室長(理学療法士)、日浅匡彦(ひあさ・まさひこ)院長

